

平成 26 年産春野菜の需給・価格の見通しについて

1 春キャベツ（4～6月）

生産地の動向等

（主な産地：千葉、神奈川、愛知）

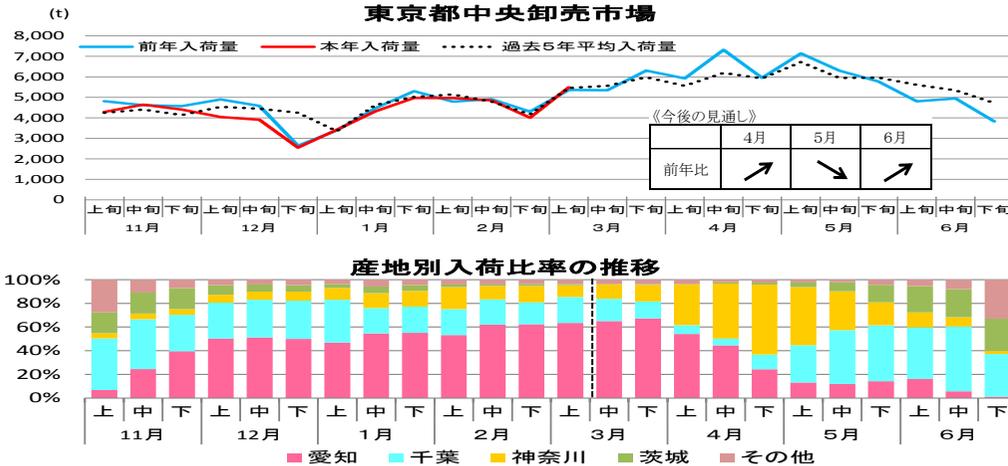
1 作付面積は、千葉及び神奈川は前年比100%、愛知は同101%。

生育状況は、千葉は、「春系」概ね順調であるが、2月前半の突風により一部のほ場が遅れる可能性有り。「初夏どり」も概ね順調であるが、2月前半の強風で定植直後のもので、一部植え直しを実施。神奈川は、低温が続いたが適度な降雨で生育概ね順調。過湿気味で病害を懸念。愛知は、「春系」は適度な降雨もあり、大玉傾向で生育順調。「初夏どり」は、作付微増。生育順調。

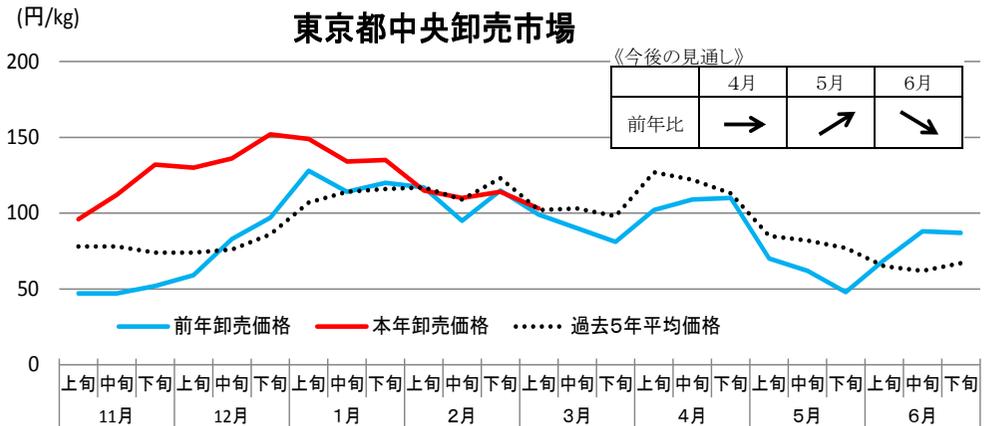
出荷開始は、千葉は、「春系」3月下旬・「初夏取り」5月下旬、神奈川は「春系」3月下旬、愛知は、「冬系」3月・「春系」3月下旬・「初夏取り」5月上旬。

2 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年より高い、降水量は平年より少ない、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、前年並みの見込み。愛知では他品目からの転換等がみられる。

生育状況は、千葉は、生育は概ね順調であるが、一部のほ場で2月前半の突風の影響で遅れる可能性がある。神奈川は、生育は概ね順調である。愛知は、大雪で気温が下がったものの、その後適度な降雨もあり、生育は順調、大玉傾向である。

出荷量は、4月は、3月の気温上昇により、神奈川で前進出荷となり、前年を上回り、5月は、多かった前年を下回り、6月は少なかった前年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

価格は、4月は順調な出荷となり安かった前年並み、5月は平年並みの出荷となり安かった前年を上回り、6月は順調な出荷となり高かった前年を下回る見込み。

加工・業務用においては、加工歩留まりの良い寒玉系が好まれるため、この時期は茨城の中間種が出荷されるまでは、輸入物で対応することが多い。

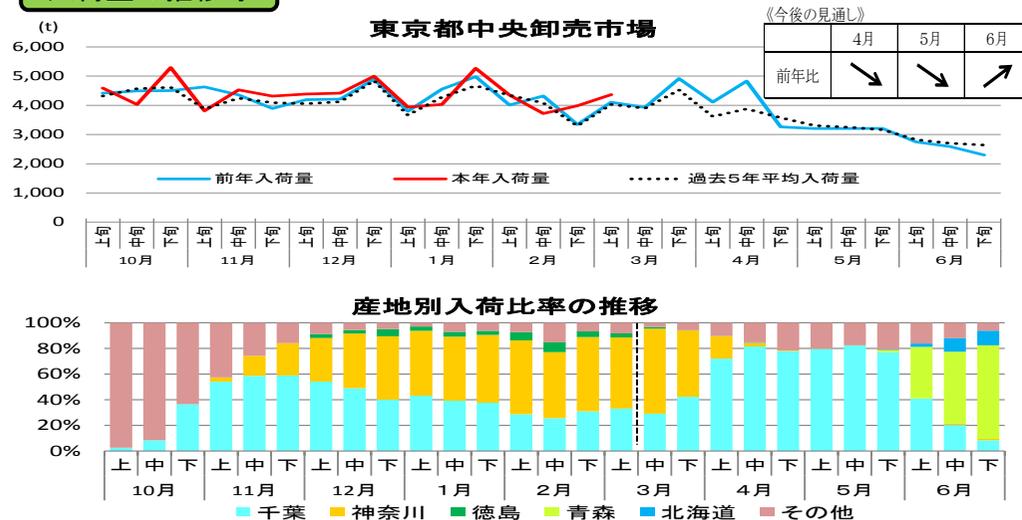
2 春だいこん（4～6月）

生産地の動向等

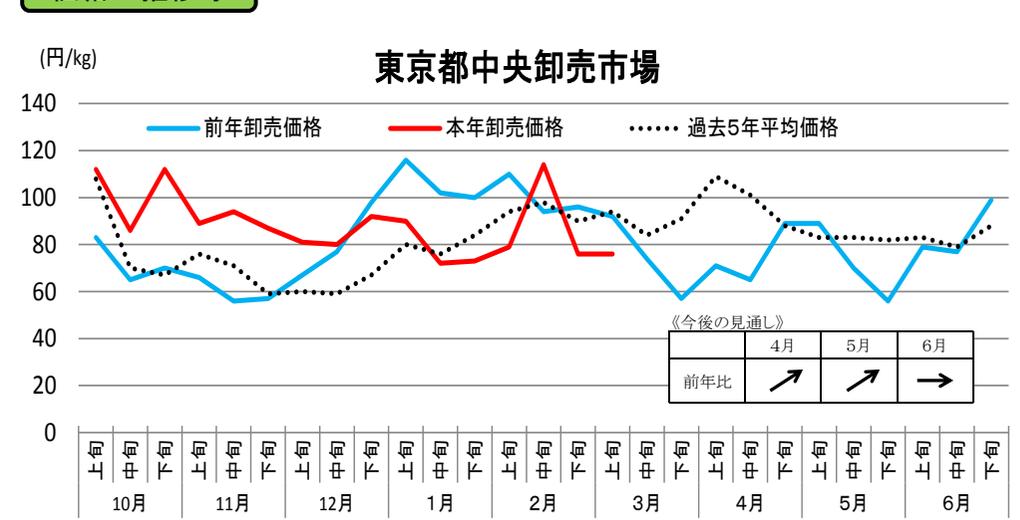
（主な産地：千葉、長崎）

- 1 作付面積は、千葉は前年比100%、長崎は同101%。
生育状況は、千葉は、2月の降雪、強風の影響から下位等級品の発生比率が増加する懸念がある。出荷量は前年を下回る見込み。長崎は、秋冬作の収穫が順調に進み、播種も順調に進んだ。生育は前進傾向。
出荷開始は、千葉及び長崎とも3月上旬。
- 2 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年より高い、降水量は平年より少ない、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

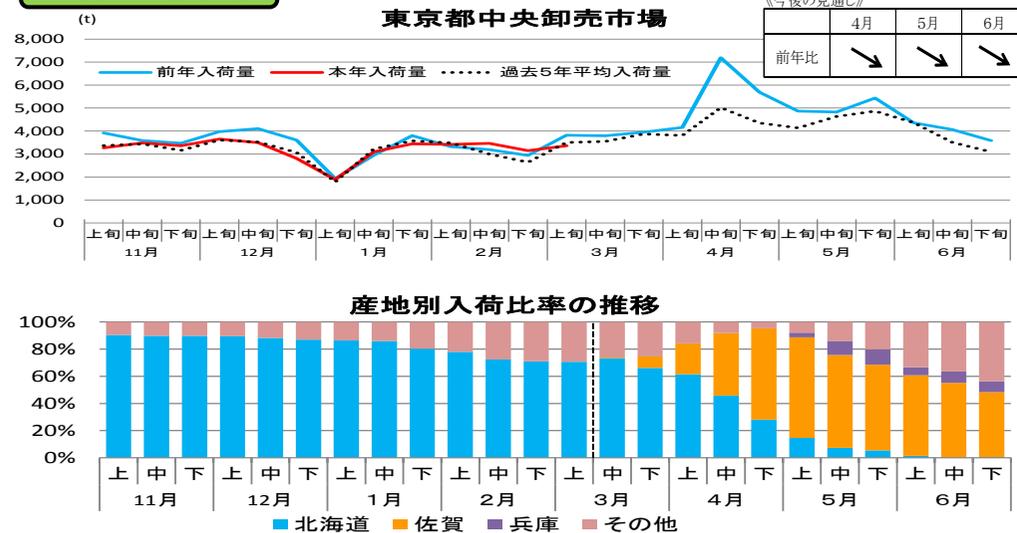
- 1 供給見通し
作付面積は、前年並みを見込む。
生育状況は、千葉は、2月の降雪、強風の影響で下位等級品の発生が増えることが懸念される。長崎は、播種も順調に進み、生育は前進傾向となっている。
出荷量は、4月及び5月は千葉が降雨で播種が順調にできなかったことから前年を下回り、6月は少なかった前年を上回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
価格は、4月及び5月は、出荷が減少することから、安かった前年を上回り、6月は平年並みを見込む。
加工・業務用では、この時期は九州産地との契約が増加傾向にある。

3 たまねぎ（4～6月）

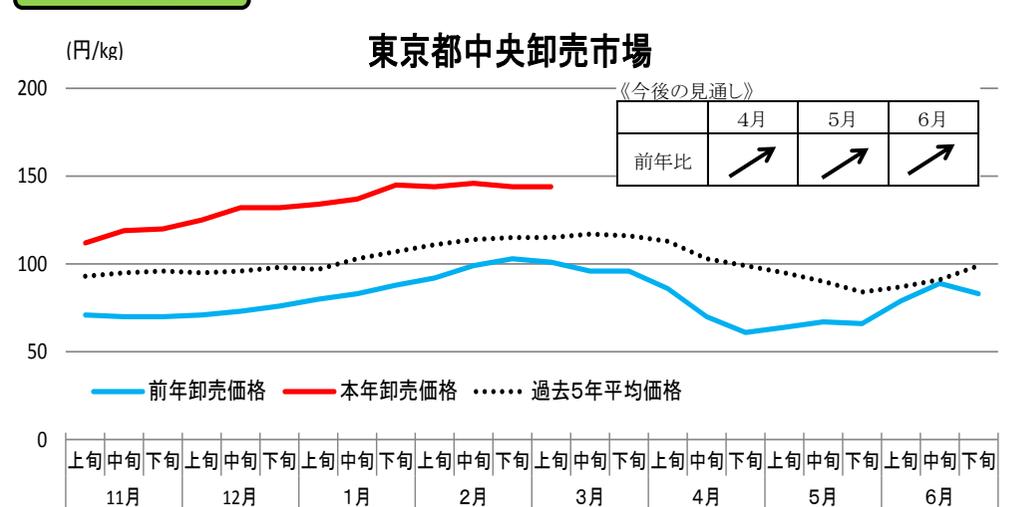
（主な産地：北海道、佐賀、兵庫）

- 1 作付面積は、北海道は前年比100%、佐賀は同95%、兵庫は同101%。
生育状況は、佐賀は、定植時期の降雨、低温の影響から生育遅れとなっていたが、現在、生育は回復している。兵庫は、極早生、早生は生育順調で、中晩生は定植が遅れているものの、生育は順調である。
出荷開始は、北海道は貯蔵ものを出荷、佐賀は3月中旬、兵庫は3月下旬。
- 2 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年より高い、降水量は平年並み又は少ない、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、北海道及び兵庫は前年並み、佐賀は、前年をやや下回る見込み。
生育状況は、佐賀は、定植時期の降雨、低温により遅れていたが、現在は回復している。兵庫は、中晩生種が遅れているが、生育は回復している。
出荷量は、前年は、府県産が豊作で出荷量が多かったことから、全体では前年を下回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
価格は、府県産の出荷が前年を上回るが、北海道の残量が少ないことから、安値であった前年を上回る見込み。
加工・業務用では、この時期に使用する北海道産の残量が少ないことから、輸入物のニーズが高まる。また、外食産業では従来見られた中国産取扱への抵抗感が、小さくなっている。

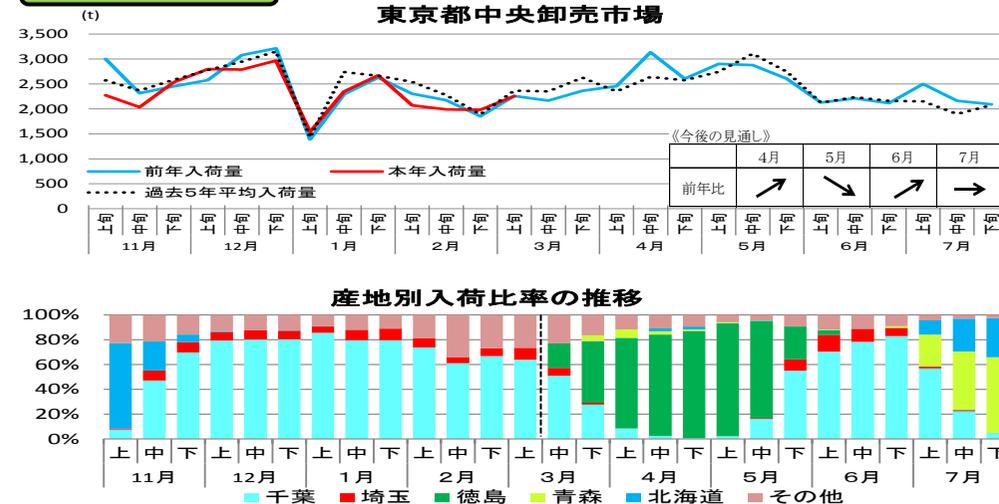
4 春夏にんじん（4～7月）

生産地の動向等

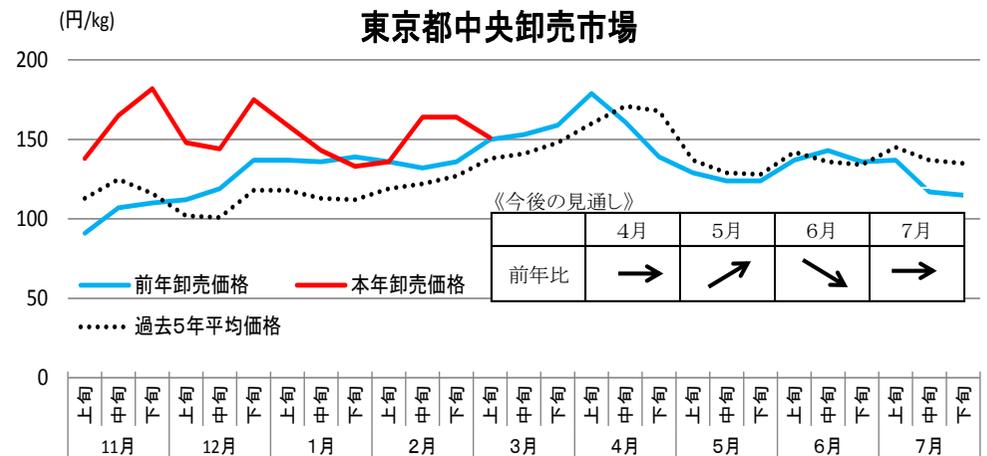
（主な産地：徳島、千葉）

- 1 作付面積は、徳島は前年比100%、千葉は同103%
生育状況は、徳島は、年内から年明けにかけての低温により生育が停滞していたが、その後は晴天に恵まれ、1週間程度早くなっている。千葉は、降雪の影響で播種作業が10日ほど遅れている。
出荷開始は、徳島は3月上旬、千葉は4月下旬。
- 2 この先1ヶ月の気象予報は、き平均気温は平年より高い、降水量は平年並み又は少ない、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、徳島は前年並み、千葉は新たな指定産地が増えたことから、前年をやや上回る見込み。
生育状況は、徳島は、年内から年明けの低温で生育が停滞していたが、その後の好天により生育は回復して1週間程度早くなっている。千葉は、降雪で播種ができなかったため、播種作業が平年に比べて10日程度遅れている。
出荷量は、4月は出荷が多かった前年を上回り、5月は徳島産の4月への前進化で下回る見込み。6月は千葉産のピークがずれ込み前年を上回り、7月は前年並みの見込み。
- 2 需要・価格見通し
価格は、4月及び7月は前年並みとなり、5月は出荷のずれ込みで少なくなるため前年を上回り、6月は出荷が増えることから、前年を下回る見込み。
加工・業務用では、この時期の国産のにんじんは小ぶりで歩留まりが悪いため、中国産で対応する傾向が強い。

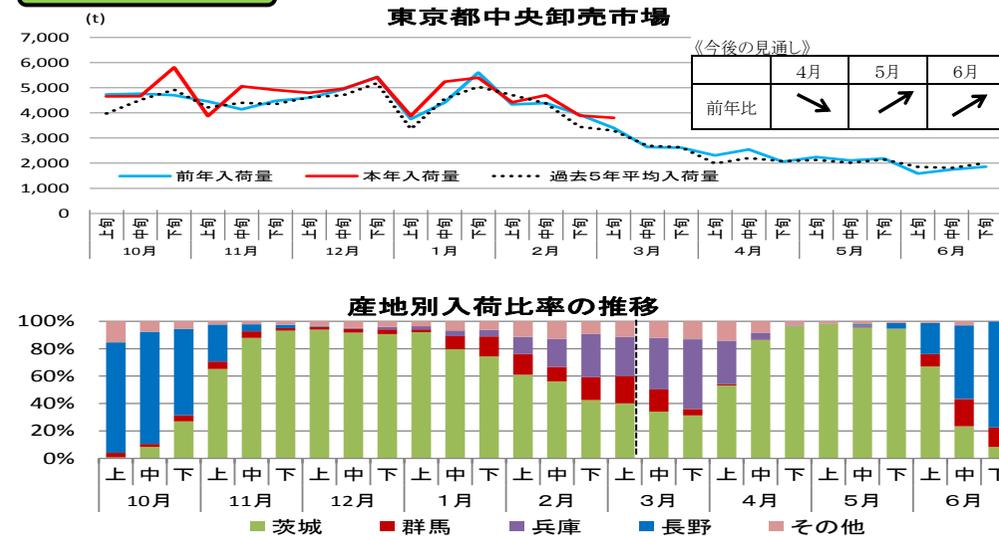
5 春はくさい（4～6月）

生産地の動向等

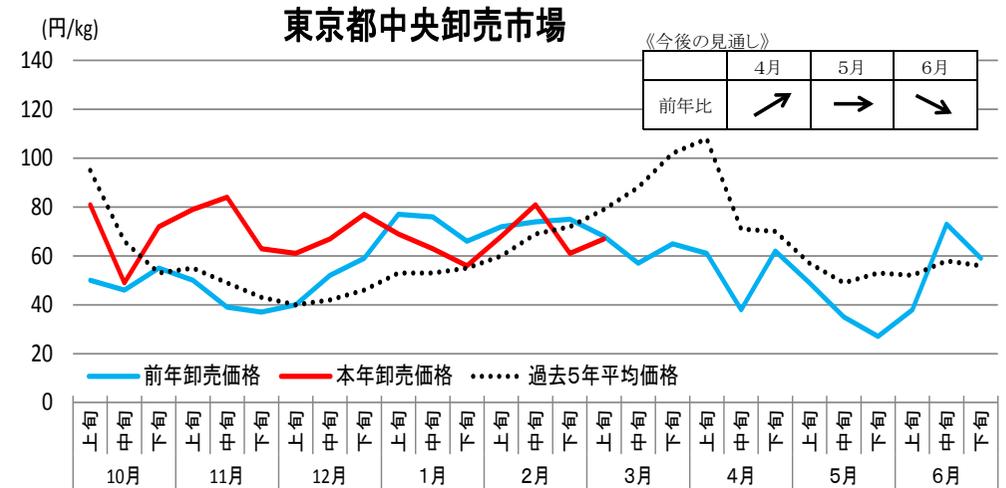
（主な産地：茨城、長野）

- 1 作付面積は、茨城は前年比100%、長野は同102%。
生育状況は、茨城は、2月の降雪の影響から生育に遅れがでている。長野は、2月の降雪の影響から多少の遅れが予想される。
出荷開始は、茨城は3月下旬、長野は5月下旬。
- 2 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年より高い、降水量は平年より少ない、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、茨城は前年並みであるが、降雪の影響から一部定植ができないため減少する可能性がある。長野は、前年をやや上回る見込み。
生育状況は、茨城は、降雪の影響で遅れがみられる。長野は、降雪で播種・定植時期が遅れ、生育にも遅れが見られる。
出荷量は、4月は降雪の影響で生育が遅れるため前年を下回り、5月は、茨城の遅れた分が出荷されるために前年を上回り、6月は、長野の遅れた分が出荷されるために前年を上回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
価格は、4月は降雪の影響で生育が遅れるため、前年を上回り、5月は4月からずれ込むため、安かった前年並み、6月は長野の5月分がずれ込み入荷が多くなり、前年を下回る見込み。長野では、出荷の大幅増の見込みに伴う作付面積の調整の意向があり、この取組状況によっては、価格が前年並みとなる可能性もある。

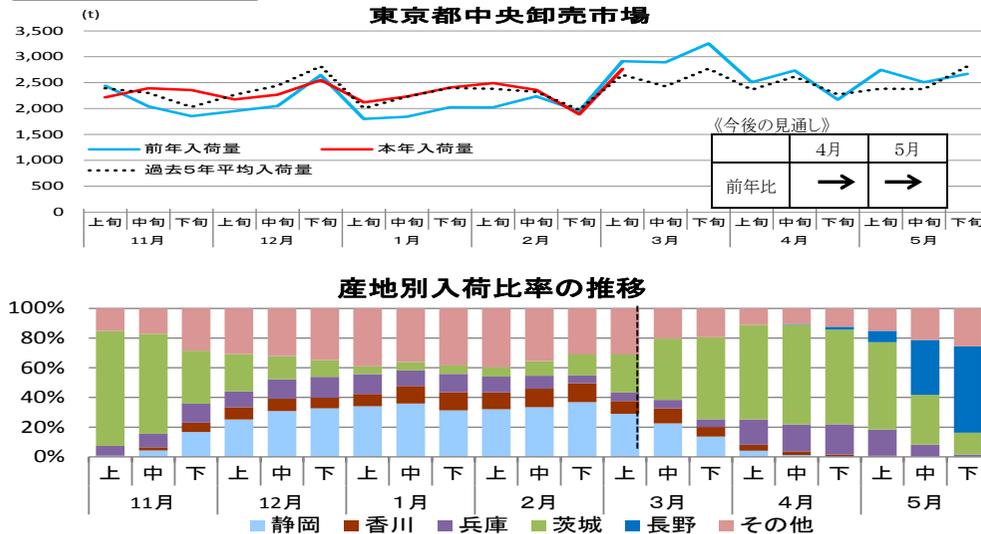
6 春レタス（4～5月）

生産地の動向等

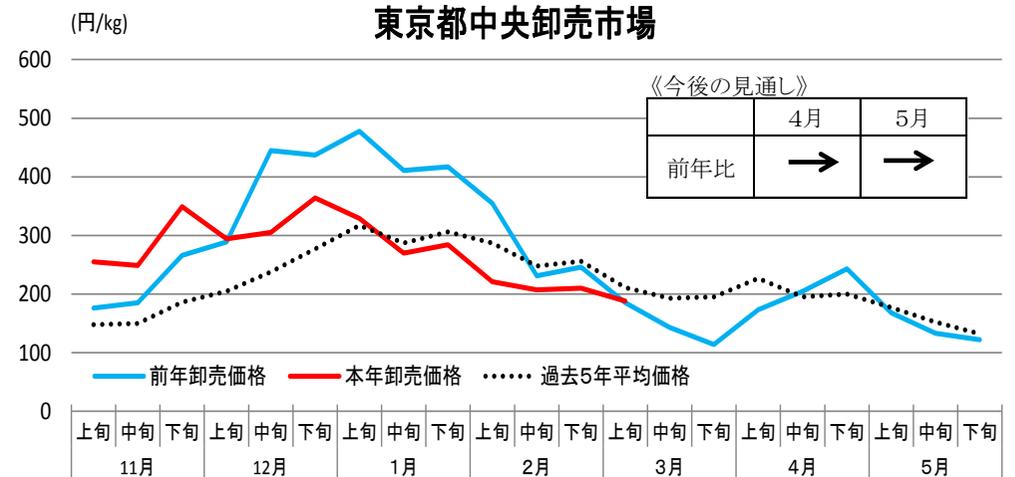
（主な産地：茨城、長野、兵庫）

- 作付面積は、茨城は前年比101%、長野は同98%、兵庫は同100%。
生育状況は、茨城は2月の降雪で定植が1～2週間停滞し、生育遅れが見られる。長野は、3月中旬から定植が始まり、生育は4月の天候次第となる。兵庫は、生育は前年並み。
出荷開始は、茨城は2月上旬、長野は5月上旬、兵庫は4月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は平年より高い、降水量は平年より少ない、日照時間は平年より多くなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し
作付面積は、茨城及び兵庫は前年並みであるが、長野は、やや前年を下回る見込み。
生育状況は、茨城は、降雪の影響で定植が1～2週間停滞し、現状では生育遅れもみられる。兵庫は、生育順調である。長野は、これから定植作業が始まり、4月の天候によって決定する。
出荷量は、全期間を通じて平年に比べてやや少ないが、前年並みの見込み。
- 需要・価格見通し
価格は、前年並みの出荷となることから、全期間を通じて前年並みの見込み。
加工・業務用では、降雪の影響で4月下旬から5月上旬分が減少し、国産品の確保ができないことも想定して、輸入品を確保する動きもみられる

その他、春野菜全体の消費の動向等

① 消費税アップ（８％）の影響と今後の対応

- ・ 消費税が３％から５％になった時は、３月の駆け込み需要があり、４月以降売上は伸びず、年間で２％減少した量販店もみられた。今回のアップについても、今後の動向を注視していきたい。また、４月に入り、青果物や日配品のセール等で集客を図っていきたい。
- ・ 価格表示について、本体価格と消費税込み価格を併記することで、値上がり感を薄める工夫を行う。
- ・ 加工・業務用については、各店舗へ少量ロットで毎日配送しているため、増税による影響は少ないと思われる。

② 主要６品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- ・ サラダ向けのスナップえんどうは、前年比２桁以上の伸びを示している。
- ・ 春に向けて、芽もの野菜やアブラナ科の各種つぼみ菜の販売を強化していきたい。
- ・ ズッキーニについては、これまでは夏中心に国産品を販売していたが、今冬、輸入品を店頭で陳列したところ、売れゆきが良かったため、今後は年間販売していきたい。
- ・ 外食レストランでは、景気回復もあり、単価アップも見込めるために、品質の良い食材を調達している。

③ 輸入野菜（生鮮野菜及び冷凍野菜）の動向

- ・ 納品先から納品単価が提示されている品目で、国産野菜では対応できない場合に、輸入野菜を納品している。
- ・ １袋 98 円等の低価格帯商品の品揃えとして、輸入野菜を一部品目で使用している。
- ・ 業務用レタスについて、11 月から台湾からの輸入が始まり、年末までは国産も高く順調な取引がされていたが、年明けに国産が増えたことから若干余り気味となった。輸入は２月で終了するとみている。また、降雪の影響で作付けができず、ゴールデンウィーク前後に国産品が確保できない可能性を見越して、アメリカとの交渉を念頭に置いている業者もいる。